



世界一おすすめ のゆる鉄！

文・写真 Ⅱ 鉄道写真家 中井 精也

【表紙写真】

昔ながらの車両と風景が今なお残る究極のゆる鉄、小湊鐵道。夜の駅に佇む列車は、まるで時代をさかのぼるタイムマシンそのもののように思えた(上総大久保駅)



青い空に緑の田んぼ。そこを走るツートンカラーの列車は、古き良きローカル線の風景のものだ(上総川間駅)

仕事柄、「中井さんが一番好きな鉄道はどこですか？」という質問を受けることが多いのですが、僕はいつも「小湊鐵道！」と迷わず答えます。そして今回は世界中の鉄道を旅した僕が、世界一おすすめの路線だと豪語できる千葉県のローカル線、小湊鐵道をご紹介します。

小湊鐵道はJR内房線の五井駅から、上総中野駅までの39・1kmをのんびりと結ぶローカル私鉄。その歴史は古く、一部区間の開業は大正14年、昭和3年には全線開業しています。開業に合わせ大正13年に輸入された蒸気機関車2台は、今も五井駅に保存され、見学することも可能です。

この路線の最大の魅力は、古き良き昭和のローカル線の雰囲気の色濃く残されているところでしょう。それは起点の五井駅に行けば、すぐに実感できます。ピカピカで立派なJRの五井駅のすぐ横に、まるで時間が止まってしまったかのようなレトロな車庫があり、そこに懐かしい車両がずらり

と並んでいるのです。そんな五井駅から小湊鐵道に乗り込めば、まるでタイムマシンに乗ったかのような、懐かしい昭和の世界へ向かう旅の始まりです。

タイムマシンで 時間を旅する

五井駅のホームに立つと、クリーム色と赤のツートンカラーの懐かしい気動車が停まっています。カラカラカラという懐かしいエンジン音、車両の側面からけられた行き先表示板が、旅情を誘います。この車両はキハ200という形式で、なんと昭和36年から52年にかけて14両が製造され、小湊鐵道は観光列車を除き、全てこの車両で運行されています。そしてそれこそが、この鐵道が鉄道ファンに愛される最大の理由でもあるのです。観光のための復刻や保存目的ではなく、約60年前に製造された車両だけで日常的に運行が続けられている鐵道は、日本には小湊鐵道以外に存在しません。いや

